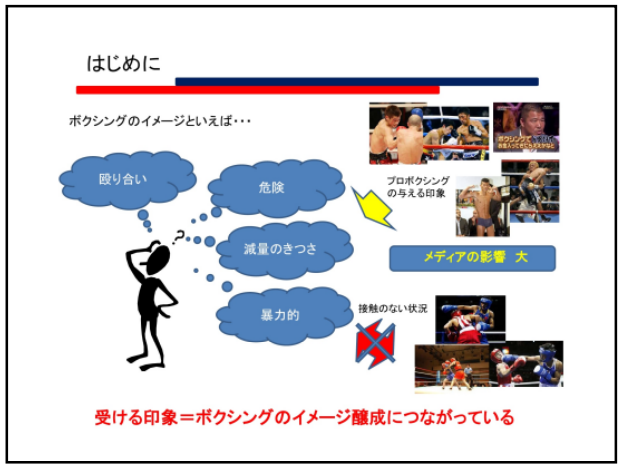
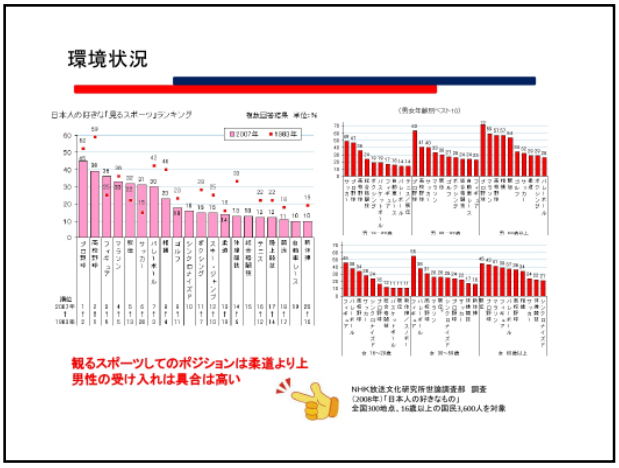
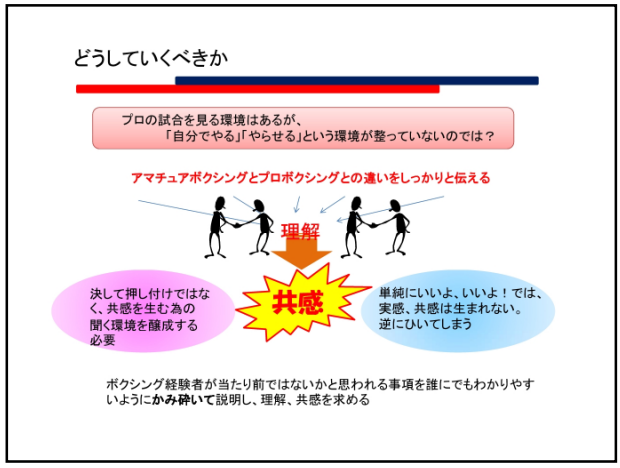
高体連研究部発表レポート

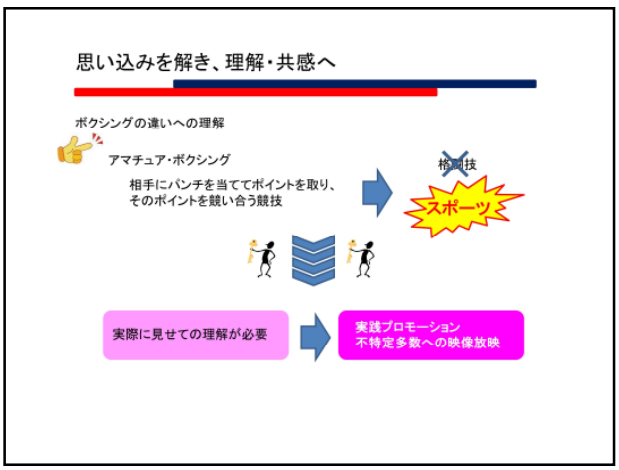
アマチュアボクシングの普及について

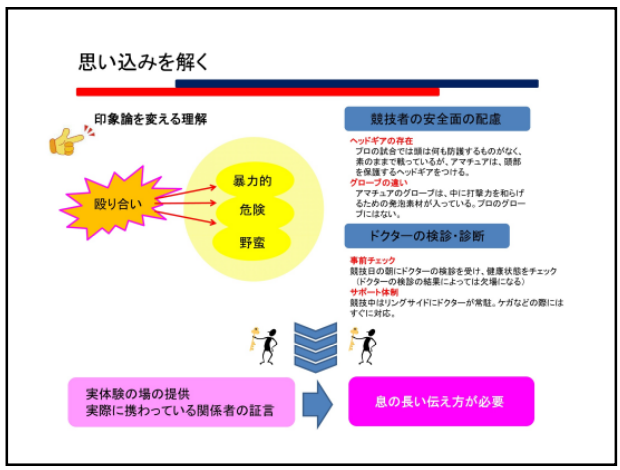
高体連ボクシング専門部　熊谷工業高校　夏井雅之











思い込みを解く

減量

過酷
きつい
つらい

ある程度は必要なこと

減量も自分の適正体重を計考慮した上で計画的に行われ、
強制的な減量はない。

実際に携わっている関係者の証言 → 本人の顔の見える伝わる演出

問題解決への選択

実践プロモーション
不特定多数への映像放映 → 不特定多数がいる場所でのプロモーション
不特定多数が接触するテレビメディア

息の長い伝え方が必要 → ローコストで息長いコミュニケーション
メディア＝ラジオメディア

本人の顔の見える伝わる演出 → 映像、音声での露出コマーシャルに
おける現役選手の出演

課題ターゲットへのアプローチ

女子・幼年の啓蒙

幼年ボクシングの導入に関して

親の発言力が大きく影響
当人より親を説得 ⇔ ボクシング＝スポーツ　✕　格闘技
といった図式を解除

ボクシングをしている人に啓蒙しても、底辺の拡大につながらない。
通常の人にいかに、わかりやすく、伝えることができるか。

はじめの一歩に向けた試みを！
刷り込み型のアプローチが必要 → 息の長い共感醸成展開

課題ターゲットへのアプローチ

きっかけ作り案として

子供（学校）の休み（夏・冬・春休み）を活用した接触機会の醸成

学童保育の一環としての導入の検討
習いごとの一種を無償で提供し、裾野を広げる

親を巻き込む機会を増やす効率のよい接触機会の醸成

子供への教育の場としての提供
札儀、挨拶等、学校以外で学べることへのチャレンジ
学童保育の代替えとしてのポジショニング

学童保育の分野に入り社会貢献につながる
アマチュアボクシングのイメージ作り

きっかけ作りを息長く
ロングスパンで展開

小中学生へのアプローチ

親子の接触機会を作るには・・・
こどもの参加をどう促進していくか？
親への理解促進なくしての広がりは存在しない。

ジュニアアスリートアカデミーの活用

女子へのアプローチ